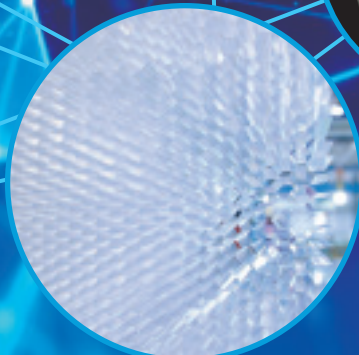
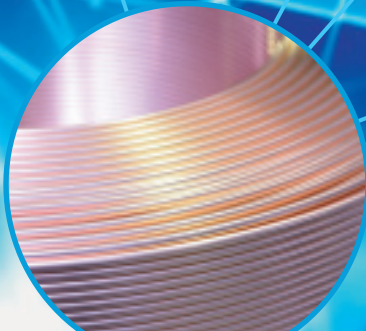
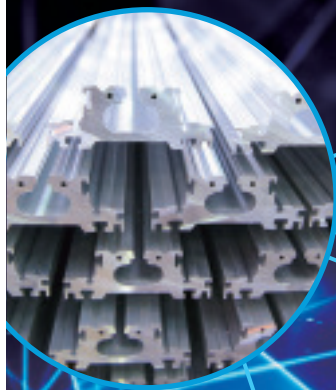



UACJのこれからの姿

付加価値を持つ
ソリューション提供へ





新中期経営計画の1年目。
前中期経営計画期間の
成果を活かしつつ、
力強い一歩を踏み出しました。

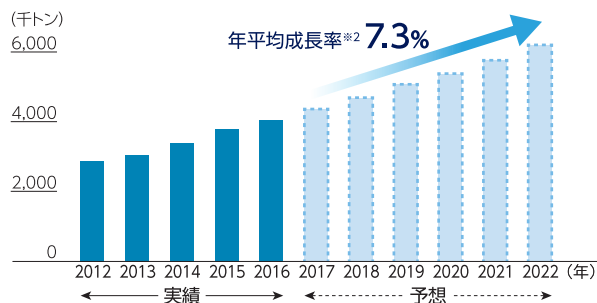
代表取締役社長 石原 美幸

当上半期を振り返って

UACJは2018年、大きな変化の節目を迎えました。5月に新中期経営計画を発表し、6月に私が代表取締役社長に就任しました。新しい方針、新しい体制のもと、新たな取り組みに挑戦していきます。その眼目は、当社グループが持つ多様な強みを発揮して、お客様のニーズに応える“ソリューション”を提供する企業へと変貌させていくことです。

その背景として、環境問題の解決をはじめとした、アルミニウムへの期待が高まっていることが挙げられます。これまで飲料缶分野においてリサイクルニーズからアルミニウムへシフトしたように、昨今では輸送機器分野において、鉄からアルミニウムへのシフトが世界中で進んでいます。UACJは今後、社会・環境への貢献につながる、このような事業機会を取り込むべく、ソリューション力に磨きをかけ、企業価値の持続的な向上を図ってまいります。

世界の輸送^{※1}向けアルミニウム板需要



※1 自動車・航空機・船舶などの総称

※2 2012年から2022年までの年平均成長率

出典：CRU Aluminium Rolled Products Market Outlook 2017 November Report

UACJが転換点を迎えた当上半期における世界経済は、引き続き緩やかに回復しているものの、米国政府が保護貿易主義的諸施策を実施し、それに応じて中国政府が対抗策を打ち出すなど、先行きは不透明な状況です。

このような環境のもと、アルミニウム圧延品業界については、板類の国内需要が低アルコール飲料向け需要によって好調だったものの、ビール系飲料の伸び悩み、西日本豪雨などの天災による生産縮小の影響があったため、飲料缶向け全体では前年同期比で減少となりました。一方、自動車関連向け需要は板材・押出材ともに底堅く推移しています。

この市場環境のなか、当社グループの国内向け売上数量は、上記全体需要とほぼ同様の傾向であり、前年同期比で板類は微減、押出類はほぼ等量となりました。一方海外では、UACJ (Thailand) Co., Ltd. (以下、UATH) やTri-Arrows Aluminum Inc. (以下、TAA) での缶材受注が増加したことに支えられ、当社グループのアルミニウム圧延品総量では前年同期を上回りました。これにともない売上高は、地金価格上昇の影響もあり、3,309億円(前年同期比9.6%増)となりました。

損益面では、天災影響による国内販売の期ずれやエネルギーコストの増加などによって営業利益は119億円(同24.9%減)、経常利益は、地金価格上昇にともなう棚卸評価関係による増益があったものの、TAA戦略投資による立ち上げコストの増加などによって76億円(同40.9%減)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は24億円(同65.7%減)となりました。

新中期経営計画がスタート

2018年度からスタートした新中期経営計画では、同時に発表した“UACJのありたい姿”の実現に向けて、5年後の2022年度およびその通過点となる2020年度の数値目標を定めました。そのために取り組むべきこととして4つの重点方針を掲げ、実行していきます。

1つめは前中期経営計画で取り組んできた「成長市場（アジア・北米）、成長分野（自動車）への注力」を継続することです。2つめは積極的に実行してきた先行投資の「着実な回収」、3つめはROIC重視の経営による「資本効率の向上」、最後の4つめはUACJウェイと名付けた行動理念の「共有と浸透」です。新中期経営計画の初年度となる当期においては、これまでタイで生産体制の整備に努めてきたラヨン製造所が順調に稼働するなど、目標の実現に向けた萌芽が見えつつあります。今後もこの計画のもと、顧客満足の最大化を図り、社会から必要とされる企業へと成長していきます。

中期経営計画の位置づけ

通期見通しと今後の配当政策について

通期の業績予想は、期首に掲げた通り、売上高6,700億円、営業利益280億円、経常利益200億円、親会社株主に帰属する当期純利益100億円を見込んでいます。

株主の皆様への配当については、配当政策の一部を変更し、通期での利益に応じた機動的な株主還元として、期末配当に一本化することといたしました。これは新中期経営計画期間においては、海外製造拠点の生産能力増強や国内での自動車材対応を中心とした企業価値向上のための投資にキャッシュ・フローを優先して配分することとし、通期の利益に対して連結配当性向20～30%を目安とする配当水準を明確にすることを目的としたものです。

なお、当期の期末配当は1株当たり60円を予定しています。

将来ビジョン **UACJのありたい姿**
アルミニウムの可能性を最大限に発揮し、社会と環境に貢献する

中期経営計画（2018年度～2020年度）

先行投資を活かして、世界的な需要に応え、グローバル企業として成長

重点方針 | 1.成長市場（アジア・北米）、成長分野（自動車）に注力継続 2.先行投資の着実な回収
3.資本効率の向上（ROIC重視） 4.行動理念の共有と浸透 “UACJウェイ”

前中期経営計画（2015年度～2017年度）

世界的なアルミニウム需要の急増を踏まえ、グローバル供給体制を整備

新社長に お聞きします

石原新社長はどのような想いを持って、
経営を進めていくのか——
その信念・情熱について伺いました。



Q 仕事で大事にしていることは？

A 1981年の入社以来、工場における製造機械の設計・開発や、製造現場におけるさまざまな業務に携わってきました。また、役員就任後は生産本部の統括として、主に名古屋および福井製造所のマネジメントに関わってきました。これら、ものづくりの現場を長年経験して気づいたのは「技術は人の役に立ってはじめて価値がある」という当たり前の事実です。いくら優れた技術があっても、作り手がお客様と目線を合わせてニーズを正しく理解しなければ、お客様にとって価値のある製品を提供できません。技術革新のスピードが加速するなかで、私たちはもっとお客様に近づき、お客様の求める価値——ソリューションの提供を実現していく必要があります。今後はお客様とともに新しい技術・製品を開発していく「共創」をより一層進めていきたいと考えています。

Q リーダーの役割とは何でしょうか？

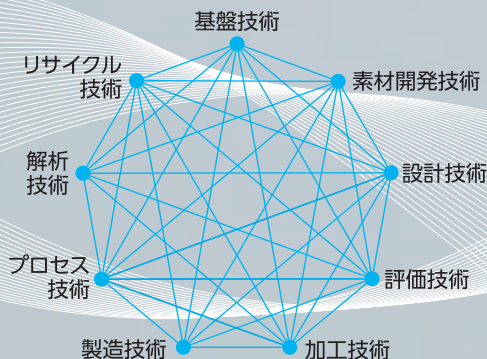
A 私がリーダーの存在を強く意識したきっかけは、上司に誘われて始めた登山です。ある時、突然低気圧が発生し暴風雨にさらされましたが、リーダーである上司があらかじめ避難小屋を経由するルートを選んでおり、即座に計画を変更して小屋で一夜を明かす決断を下した結果、難を逃れることができました。このように、あらゆる事態を想定して冷静に判断することがリーダーの役割だと実感しました。また、目標達成のために計画を立て念入りに準備したり、思わぬ急変に臨機応変に対処したりといった点など、登山は企業経営に似ています。そして、山の天候と同様、アルミニウム産業を取り巻く経営環境も激しく変化します。いかなる場合にも従業員が迷わず前に進めるよう、リーダーとしての責務を果たしながら、将来ビジョンの実現に向けて一步一步着実に登り続けます。

UACJのこれからの姿

付加価値を持つソリューション提供へ

UACJは、100年以上にわたって培ってきた研究開発力と多彩な加工技術を持つ、総合アルミニウムメーカーです。今後はこれらの特長を活かして、アルミニウムを“素材”として提供するのではなく、付加価値を持つ“ソリューション”として提供する企業へと進化していきます。お客様・社会が抱える課題にアルミニウムで応える、世の中になくてはならない企業を目指していきます。

素材を活かす研究開発



アルミニウムの特性

- 軽い
 - 強い
 - リサイクルしやすい
 - 低温に強い
 - 電気をよく通す
 - 耐食性がよい
 - 毒性がない
 - 加工性がよい
- など

多彩な加工を生み出す6事業



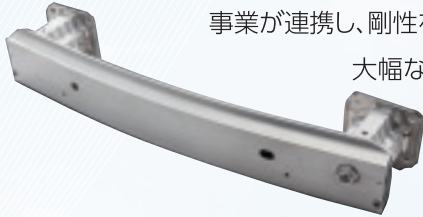
幅広い供給分野

たとえば…

押出事業と加工品事業が連携して品質を高める製品を開発

UACJは、各事業が蓄積した加工技術や独自のノウハウを組み合わせ、アルミニウムの新たな可能性を生み出しています。その成果の一つが、アルミニウム製軽量バンパーアセンブリーです。研究開発部門と押出・加工品

事業が連携し、剛性を保ちながらも卓越したデザインと大幅な軽量化を実現。この製品は、2015年発売の4代目「マツダロードスター」に採用されています。



グループ連携で、付加価値を持つソリューションとして提供

たとえば…

研究開発力を活かして用途に合った合金を開発

UACJは、アルミニウムへの深い知見を活かし、お客様の多様化するニーズや社会の課題解決に合金開発から取り組んでいます。2017年には、IT筐体向けに従来製品の約2倍の強度を持つ「ZK75」を開発。スマートフォンの薄型化・大画面化の追求とともに生じる強度不足を解消したことで、「arrows NX F-01J」に採用されました。



飲料缶



自動車



航空・宇宙



船舶



医薬品・食品



IT



エアコン



建設

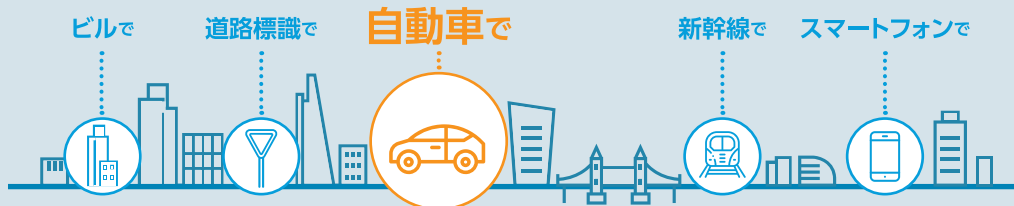


社会に役立つ
UACJ



街中で

UACJのアルミニウムは、街中や家庭、産業など、さまざまなところで活躍しています。これほど多くの場所で使われるのは、アルミニウムが多様な特性を有し、UACJにそれを活かす研究開発力や加工技術があるからです。そうしたUACJの製品のなかから、今回は街を走る自動車分野での活躍をご紹介します。



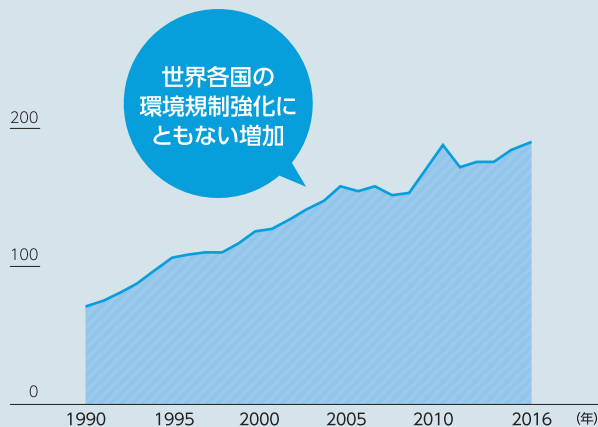
自動車の“環境問題”を解決する UACJのソリューション



自動車業界では近年、世界各国で環境規制強化が進んだこととともない、燃費向上につながる軽量化がテーマになっています。そこで着目されているのがアルミニウム。鉄の約3分の1の比重でありながら、強さも兼ね備え、輸送機器分野において使用量が増えています。加えて、一度アルミニウムになれば、リサイクルしやすい特性から、電力を減らしてアルミニウムに戻すことができ、いっそう環境負荷低減につながります。また、自動車は多様な部材で組み立てられています。その部材一つひとつをアルミニウムにすることは、環境への大きな貢献になります。UACJはそのアルミニウムをソリューションとして提供することで、自動車の“環境問題”の解決に貢献しています。

自動車1台当たりのアルミニウム使用量*

単位:kg



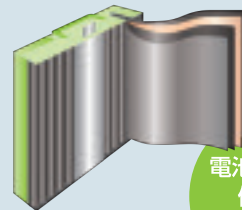
*自動車向けアルミニウム製品総量を国内自動車生産台数で除した数値
出典：一般社団法人 日本アルミニウム協会ウェブサイト

次世代エコカー“電気自動車”の普及の鍵を握るUACJ

次世代エコカーと呼ばれる電気自動車(EV)。その普及の壁となっているのが“航続距離”です。一度の充電で長い距離を走るにはガソリン車同様、軽量化が必要条件。また、EVの心臓部である“電池”は重量があるため、より一層の軽量化が求められます。UACJの製品は軽量化に応えることで、EVの普及に貢献します。

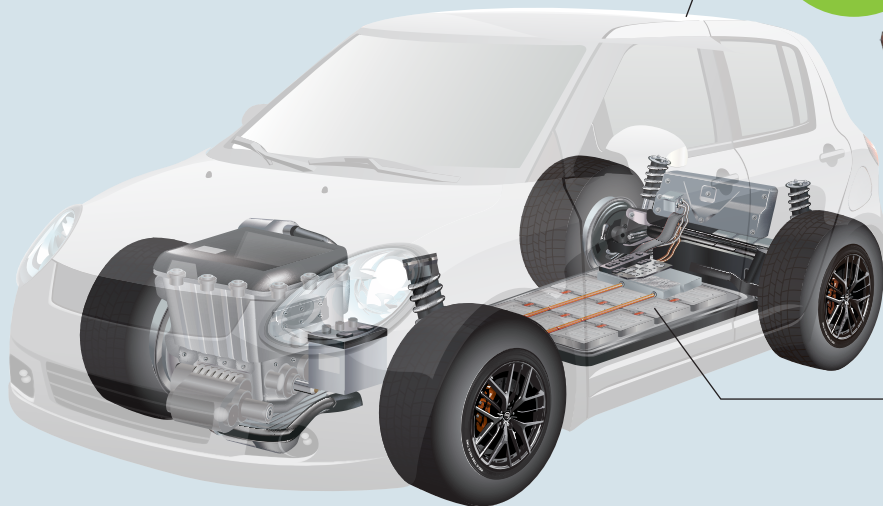
部材軽量化で、
航続距離の伸長に

ガソリン車用の
製品が
活かせる



電池ケースも
供給し、
軽量化に貢献

国内唯一、
両極箔を供給し、
電池の長寿命化に



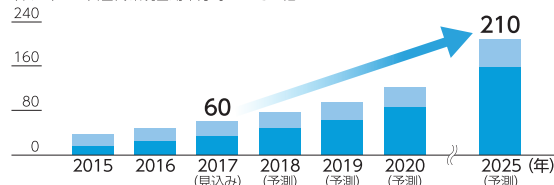
News

自動車材需要が増大する中国において、 電池箔生産設備などを増強

- ・電池箔、コンデンサ箔、熱交換器材の設備を増強
- ・日本、マレーシアとともにグローバル3極の電池箔生産体制へ
- ・箔地から集電体、電池外装材用箔まで一貫した生産体制へ

リチウムイオン二次電池正極集電体大型用途分野の 市場規模(世界)

(千トン) ■ 次世代環境自動車分野 ■ その他*



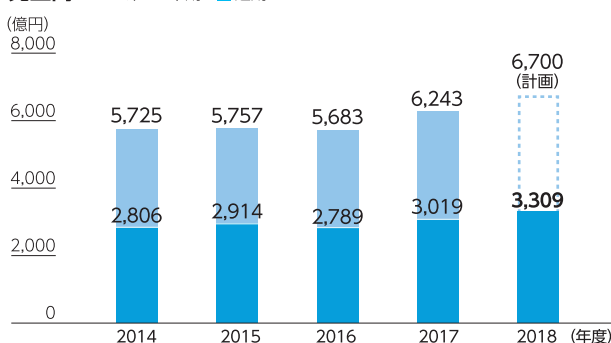
※その他:大型用途分野のうち、電力貯蔵分野、動力分野、その他用途(家電用)の合計
出典:富士経済「エネルギー・大型二次電池・材料の将来展望 2017-エネルギーデバイス編」

収益性

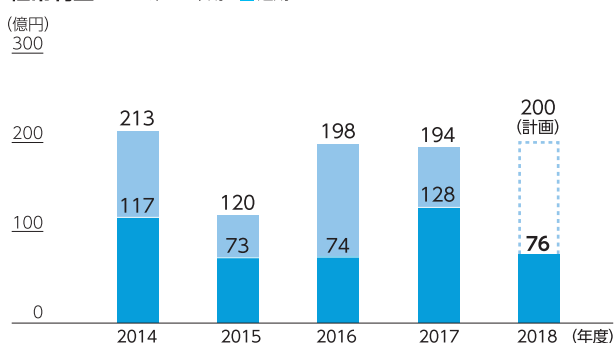
売上高は、缶材の販売数量がUATHとTAAで増加したことや、自動車材の販売数量も堅調に推移したこととともない、前年同期比290億円増となりましたが、経常利益はエネルギーコストや米国拠点の戦略投資の増加などによ

て、前年同期比52億円減となりました。なお、実力ベースの収益性指標であるAdjusted EBITDAも同様の要因によって前年同期比45億円減となりました。板製品の売上数量は、初めて海外向けが国内向けを上回りました。

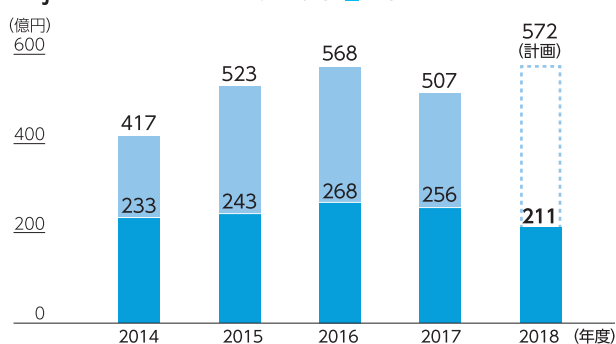
売上高



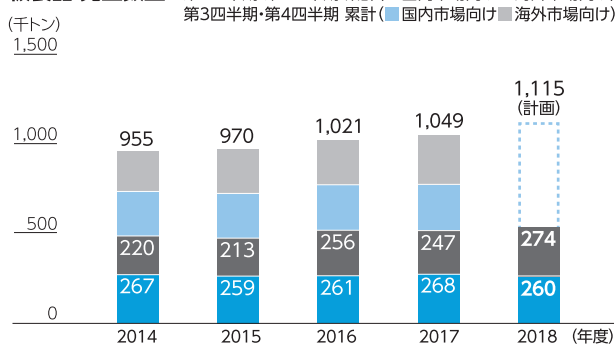
経常利益



Adjusted EBITDA*



板製品 売上数量



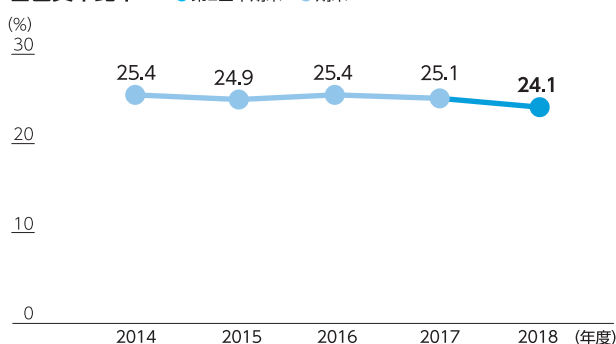
* Adjusted EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費-棚卸評価関係

効率性

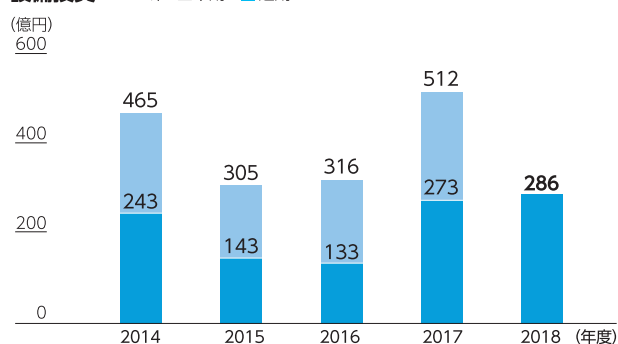
自己資本比率は、有利子負債の増加によって前年度末時点から減少しました。また設備投資は大半をUATHとTAAでの設備更新としましたが、前年同期並みとなりま

した。なお、新中期経営計画では「資本効率の向上(ROIC重視)」を重点方針の一つとして掲げており、関連会社の株式売却などを順次行っています。

自己資本比率



設備投資

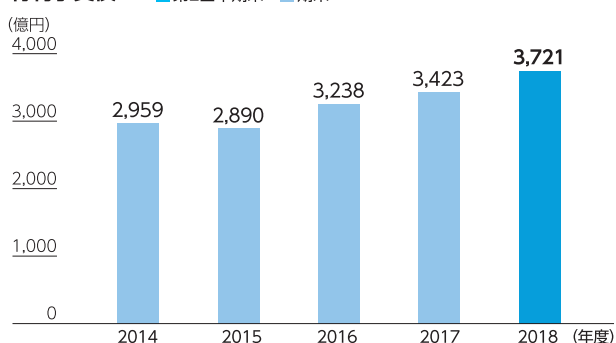


安全性

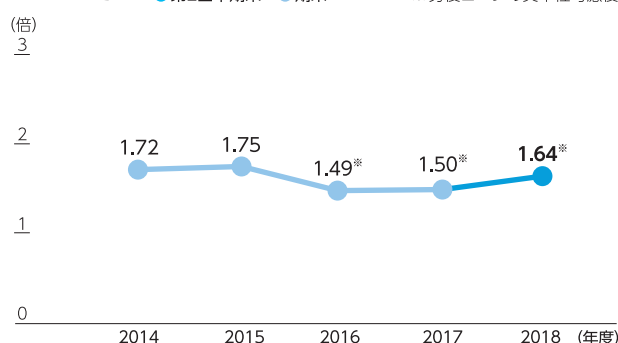
世界的なアルミニウム需要の高まりを捉えた積極的な先行投資によって、有利子負債は増加傾向にあります。しかし、大

型投資は2018年度をピークとし、2020年度にD/Eレシオを1.5倍とするべく、財務バランスの健全化に努めていきます。

有利子負債



D/Eレシオ



会社データ

名称	株式会社UACJ (英文名:UACJ Corporation)
事業内容	アルミニウム・銅等の非鉄金属及びその合金の 圧延製品・鋳物製品・鍛造製品並びに加工品の 製造・販売など
資本金	522億77百万円

拠点一覧

本社	東京都千代田区大手町1丁目7番2号 東京サンケイビル
製造所	名古屋(愛知県)/福井(福井県)/ 深谷(埼玉県)/日光(栃木県)
支社・支店	中部支社(愛知県)/関西支社(大阪府)/ 九州支社(福岡県)/北海道支店(北海道)
研究所	R&Dセンター(日本/米国/タイ)

役員一覧

取締役	代表取締役社長兼社長執行役員	石原 美幸	執行役員	専務執行役員	土屋 博範
	代表取締役兼専務執行役員	中野 隆喜		常務執行役員	清水 洋二
	代表取締役兼専務執行役員	種岡 瑞穂			福井 裕之
	取締役兼専務執行役員	渋江 和久			竹川 幸男
	取締役兼常務執行役員	田中 清		執行役員	山口 明則
		手島 雅裕			阿部 禎一
		新堀 勝康			川島 輝夫
	取締役兼執行役員	今泉 明人			田口 正高
	取締役(社外、非常勤)	鈴木 俊夫			松下 彰
		杉山 涼子			稲垣 公樹
監査役	常勤監査役	池田 隆洋		吉田 明典	
		作宮 明夫		細見 和弘	
		長谷川 久		大谷 隆英	
		石原 宣宏		桑本 由紀浩	
	監査役(社外、非常勤)	浅野 明		須ヶ間 聡	
		入山 幸		田中 信二	
		山崎 博行		坂上 淳	
		元山 義郎		Henry Gordinier	

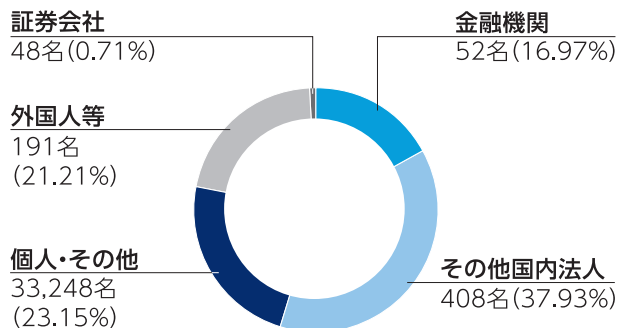
基本情報

上場市場	東証
証券コード	5741
株式の売買単位	100株
発行可能株式総数	170,000,000株
発行済株式総数	48,328,193株 ※自己株式88,339株を含む
株主数	33,947名
決算期日	3月31日
定時株主総会	6月下旬
株主確定基準日	期末配当 3月31日
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
公告方法	電子公告 https://www.uacj.co.jp/ (やむを得ない事由により、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します)

大株主

株主名	持株数(千株)	持株数比率(%)
古河電気工業株式会社	12,036	24.90
新日鐵住金株式会社	3,744	7.74
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	2,869	5.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,168	2.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,039	2.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	846	1.75
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	811	1.67
UACJグループ従業員持株会	751	1.55
住友商事株式会社	750	1.55
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	738	1.52

所有者別の構成比率(株式数比率)

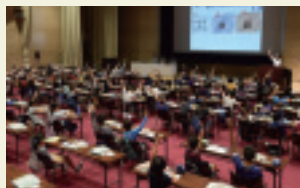




当社グループのESG（環境・社会・ガバナンス）に関する活動をご紹介します。

小学生を対象とした『地球教室』に協賛

朝日新聞社が主催する環境教育プロジェクト『地球教室』の趣旨に賛同し、今年から協賛しています。その活動の一つ、『かんきょう1日学校』が2018年9月に開催され、小学生と保護者111組が参加し、当社の社員も講師役として出席しました。当社が担当する授業ではアルミニウムの特性や暮らしの中でエコに役立っている事例を紹介。子どもが記者に扮した取材コーナーでは、リサイクルについて活発な質問を受けました。今回のイベントはアルミニウムの有用性や環境への貢献性を子どもたちに知っていただく絶好の機会となりました。



ダイバーシティを意識し、ガバナンス体制を強化

当社は、経営の透明性・健全性の向上を目指し、コーポレート・ガバナンスの強化を図っています。その一環として、取締役会のダイバーシティを推進しています。2015年には女性を、2018年には企業経営経験を持つ2人を独立社外取締役として選任。その結果、3分の1を独立社外取締役が占める構成となっています。また、2017年には指名・報酬諮問委員会を設置。独立社外取締役が委員長を務めるなど、多様な視点・価値観を持つガバナンス体制の整備に注力しています。

これまでのガバナンス体制強化

- 2014年 外国人執行役員を任命
- 2015年 初めて女性の社外取締役を選任
- 2017年 指名・報酬諮問委員会を設置
- 2018年 経営経験者を社外取締役に選任

今年度も株主向け工場見学会を開催しました

株主の皆様へ当社製品・事業への理解を深めていただくために、ものづくりの現場を体感していただく工場見学会を開催しています。今年も名古屋・福井両製造所において、当社の品質へのこだわりや幅広い製品用途を紹介しました。また、個人株主向け説明会も開催するなど、株主の皆様との接点づくりに努めています。



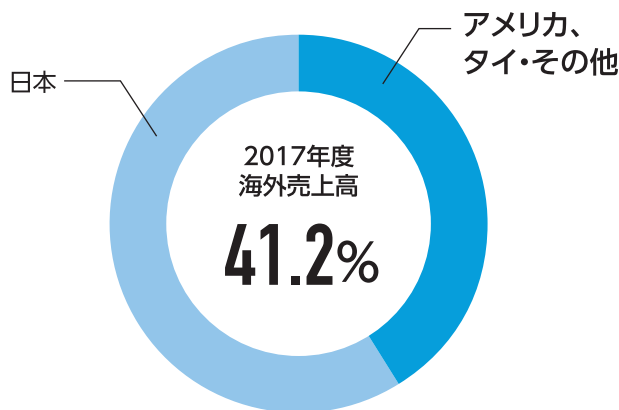


株主の皆様からのご質問に お答えします!

Question

海外売上高比率は 伸びている?

グローバル供給体制の強化を目指す当社は、前中期経営計画期間において、アルミニウム市場の成長地域であるアジア・北米の事業強化に向けた施策を進めました。その結果、海外売上高比率は2014年度の36.7%から、2017年度は41.2%に伸ばしました。また、2018年度は板製品の販売数量が111.5万トンとなる見込みで、経営統合後初めて海外市場向けが国内市場向けを上回る見通しとなっています。



Question

働き方改革は 進んでいる?

当社は、生産性や業務効率の向上を図る「働き方改革」の趣旨を踏まえ、生産性と従業員の働きがいを高めるための働き方改革を進めています。モチベーションの高い社員による仕事こそ、お客様に喜んでいただける仕事であり、そうした企業文化のある会社こそ「社会から必要とされる会社」であるという観点から、労働時間の管理に留まらない創発的なプロジェクトとして、全社一丸となったワーク・ライフ・バランスを推進しています。



「業務効率化推進」セミナー体験会でのグループディスカッションの様子

株式会社UACJ

〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目7番2号
東京サンケイビル
Tel. 03-6202-2600(代表) Fax. 03-6202-2021
<https://www.uacj.co.jp/>



“UACJ”、UACJ は、日本、米国、中国および欧州連合商標 (EUTM) などにおける株式会社 UACJ の登録商標です。

単元未満株式の買取制度のご案内

当社では、単元株制度を採用しており、1単元は100株とさせていただきます。

単元未満株式(1～99株)は議決権がなく、また証券市場にて売買することができません。

単元未満株式につきましては、法律および当社定款・株式取扱規則の規定に基づき単元未満株式の買取制度をご利用いただけます。

※2018年12月31日までの期間限定で、単元未満株式の買取請求に際して当社にお支払いいただく買取手数料を無料としているものを2019年6月30日まで延長いたします。

証券口座に株式をご所有の株主様

お取引の証券会社にお問い合わせください。

旧住友軽金属工業の株式を特別口座にご所有の株主様

下記にお問い合わせください。

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
(土・日・祝日を除く 9:00～17:00)